

旅行取扱状況の概観（平成 19 年 6 月分）

海外旅行の取扱額では、団体旅行は、学生団体旅行が取り扱い好調を持続し前年を超えたが、一般団体は前年好調の反動もあって大幅な前年実績割れとなり、合計でも前年実績を大きく割り込んだ。企画旅行は、ホリデいの取り扱い低調が大きく影響して前年実績に達せず、3ヶ月連続の前年比マイナスと低迷している。個人旅行は、海外クーポン等の取扱いは伸びたが、国際航空券等が伸び悩んだため、前年実績に僅かに届かず前年比マイナスに転じた。海外旅行合計は、団体旅行の不振、企画旅行の低調により前年比 83.2%と前月に続いて前年比マイナスの結果に終わった。

国内旅行の取扱額では、団体旅行は、学生団体は伸び悩み前年実績に届かなかったが、一般団体が取り扱い好調で大きく前年実績を超えたため、合計は前月に続いての前年比プラスと堅調に推移した。企画旅行は、メイトの取り扱いが前年実績を大きく上回ったため2ヶ月ぶりの前年比プラスと回復。個人旅行では、主力のJR券、航空券、宿泊券が共に伸び悩み、合計では大幅な前年実績割れとなった。国内旅行合計は、団体旅行、企画旅行は前年実績を超えたが、個人旅行の不振が大きく影響し、前年比 99.6%と前年実績に届かず2ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。

外国人旅行は、好調に推移していた個人旅行の取り扱いが鈍化したため、前年比 75.5%と8ヶ月ぶりに前年実績を下回る結果に終わった。

6月の総取扱額は、国内旅行、海外旅行、外国人旅行が共に前年実績を下回り、前年比 92.5%と前月に続いての前年比マイナスと取り扱い低調であった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、取り扱い件数の減少に前年取り扱い好調の反動が加わり大幅な前年実績割れと不振。学生団体は、前月に続いて修学旅行の取り扱いが好調で前年実績を大きく上回った。団体の方面別取り扱いでは、中国が目立った程度で、前年実績を上回ったのは韓国、ハワイのみであった。

(2) 企画旅行

ホリデイは、前月よりは回復したが依然取り扱いに伸びが見られず、取扱額前年比 92.1%、取扱人数前年比 85.8%と共に前年実績を下回り、取扱額は3ヶ月連続の前年比マイナスと低迷している。ホリデイの方面別取り扱いでは、前月と傾向は変わらず韓国、台湾、インドネシアが目立った程度で、ロングポジションが不振であった。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、イベント関係の取り扱い好調が全体を押し上げ、前月に続いての前年比プラスと好調に推移した。学生団体は、校外学習等の取扱いは好調であったが主力の修学旅行の取り扱いが鈍化したため、前年実績に届かなかった。

(2) 企画旅行

メイトは取り扱いが急増し、取扱額で前年比 109.6%、取扱人数で前年比 110.8%と共に好調で、前年実績を大きく上回り回復傾向。商品別の状況は、九州、沖縄、東京地区、関西地区商品が前年を大きく上回り好調であった。